操人形～第２幕～（シーン５）

　和服姿の女がいる。人形を操っていた女性だ。うつむいていた顔が上を向いた。その眼は、何かを思いつめたような決意に満ちていた。

　「トン」太鼓が鳴る。小さく、小さく、何度もなる。「トントントントン」太鼓の音が小刻みになっていった。

　女が動いた。少し歩いた後、盃の置かれている台の前で止まった。盃にはなみなみと何かが注がれていた。女はしばらくそれを見ていた。そして、おもむろに盃を持ち上げ、盃を上にかざす。まるで、神に盃を供えるように。

　「ドン！」太鼓がなった。

結美「ああっ。何てことでしょう。徳川様から出された御触れが私たちの仲を引き裂こうとする。」

　「ドン！」太鼓がなった。

結美「私は領主の姫、彼は穢れを引き取る人形師。お

父様は、私と彼の身分違いの恋を許してくれない。」

「ドン！」太鼓がなった。

結美「ああっ。この世で結ばれないのなら、いっそ。次の世界では、貴方と結ばれることを願って。」

女が盃を胸の前まで下した。そして、盃を、口の前に持ってきた。盃に口をつける。少しした後、盃から口を離す。

「ドン！」太鼓が一際大きくなった。

それと同時に、女がバタリと倒れた。舞台の幕が下りてきた。人形劇の第２幕は終わった。